

新富町 議会だより

127号
2025年7月



6月定例会

- 新富町議会新体制でスタート
- 6月定例会 一般質問(6名)
- 議会報告(6月定例会、5月、7月臨時会)
- 議案審議結果
- 現地調査
- Pickup (富田小運動会・富田中体育大会)



議長・副議長就任あいさつ

議長
阿 萬 誠 郎



5月1日臨時議会において、新富町議会議長に再任されました。身の引き締まる思いであり、町民の皆様の信任に応えるべく全力で職責を果たす所存です。現在、新田原基地へのF35B戦闘機配備に伴う「垂直着陸訓練」、とりわけ「夜間訓練」の実施について、全議員で見直しを強く求めております。今後も町民の皆様への心に寄り添いながら、訓練の最小化を粘り強く要望してまいります。

議長運営においては、執行部に対し丁寧な説明を求め、妥協なき議論を重ねつつ、年に一度の「議員と語ろう会」をはじめ、町民の声を受け止め、工夫を凝らした情報発信にも力を入れてまいります。

我々は「地方自治の最前線」に立ち、少子高齢化や人口減少など、逃れられない社会課題に直面しています。そうした中でも懸命に暮らす町民の姿を受け止め、「生業と魅力ある地域づくり」に向けて議員一丸となり、執行部と切磋琢磨しながら歩んでまいります。

今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

副議長

小 山 早 苗



このたび、議員各位のご推挙を賜り、副議長に就任いたしました。身に余る大任に身の引き締まる思いでございます。今後は議長を補佐しつつ、多様な立場やご意見を尊重し、より開かれた議会の実現を目指してまいります。また、円滑な議会運営に誠心誠意取り組み、女性の視点で町民の皆様との対話を大切にしながら、信頼される議会づくりに尽してまいります。何卒、変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

新富町議会 新体制でスタート

議会活性化特別委員会



委員は、議長を除く全議員で構成され、委員会には議長もオブザーバーとして出席します。議会の活性化に関する調査・研究を行います。「議員と語ろう会」の企画、運営を行うのもこの委員会になります。

【委員長】

◎ 小山 早苗

【副委員長】

○ 石崎 俊二

議会運営委員会



議会の運営に関する事項、会議規則、委員会条例に関すること、議長の諮問に関する事項等を調査し、円滑な議会運営を行うために設置されています。

【所属議員】※写真右から

石崎 俊二

◎ 大木 俊二(副委員長)

◎ 吉田 貴行(委員長)

○ 小山 早苗

松浦 美緒

総務産業常任委員会



行政一般、財政、農林水産業、商工業、水道事業、土木に関する事項及び他の常任委員会に属さない事項を所管とする委員会です。

【所属議員】※写真右から

今村 行信

吉田 貴行

○損斐 兼久(副委員長)

○石崎 俊二(委員長)

出口 喜重郎

阿萬 誠郎

文教厚生常任委員会



教育、民生、労働及び保健衛生に関する事項を所管とする委員会です。

【所属議員】※写真右から

三浦 千尋

大木 俊二

○松浦 美緒(委員長)

○羽田野 治(副委員長)

小山 早苗

基地対策特別委員会



新田原基地周辺の生活環境等の改善や、基地問題の調査研究を行います。また、諸問題改善に向け要望活動を行います。

【所属議員】※写真右から

三浦 千尋

○石崎 俊二(副委員長)

○今村 行信(委員長)

損斐 兼久

出口 喜重郎

議会広報特別委員会



議会広報誌『新富町議会だより』の編集・発行を行います。

【所属議員】※写真右から

今村 行信

石崎 俊二

○羽田野 治(委員長)

○小山 早苗(副委員長)

松浦 美緒

損斐 兼久





スマホで視聴
できます▼



いしざき しゅんじ 議員
石 崎 俊 二

小・中学校における不審者侵入対策は

教育長 監視カメラ設置や避難指導などを行っている

教育長

各学校で危機管理マニュアルを作成し、不審者対応の項目を設けている。それに基づき訓練を行い、スクールサポートや警察とも連携し、指導を受けている。「さすまた」については、不審者を押さえつけるのではなく、防衛しながら児童生徒を避難させることが重要である。また、消火器を使用し不審者の動きを封じることが有効である。

学校へ行けない子どもたちについて

問 いわゆる「不登校」と呼ばれる子どもたちへ支援体制は十分か。また本町の対応について伺う。

教育長

支援の新たな形として、児童生徒が自ら時間割や居場所を決めるなど、従来の「みんな一緒に」という学校文化を見直し、多様性を受け入れ、互いに認め合う学校文化を形成することが重要である。現在、本町では、該当する児童生徒が自分の気持ちや体調、関心に応じた時間割を作成し、教室以外の居場所を選択するほか、個別指導、プリント学習、タブレット学習を自主的に工夫している。特に、「自分で決めた」「自分でできた」「自分の居場所がある」という4つの実感を大切にしながら、支援を進めている。



新田原基地でのデモフライトは実現できるのか

新田原基地問題について

問

F35Bは今年度中に確実に配備される。以前から要望している垂直着陸のデモフライトは、配備前に実施する必要があると考えるが。

町長

配備前に、できる限り早い段階で、住民に騒音を体感してもらう必要がある。その音を確認した上で、可否を判断したいと考えているため、引き続き要望していく。

問 実際の訓練や指導の内容は。

問 2001年、大阪教育大附属池田小学校で、校舎に侵入した男により児童・職員が殺傷されるという痛ましい事件があった。あれから24年が経過したが、未だに校舎内への侵入者による暴力、傷害事件が発生している。こうした事態を想定した本町の対策について伺う。

教育長 校舎の全ての出入り口、校門、校庭を監視する監視カメラを設置している。また、校舎内出入り口を制限し、訪問者をチェックするほか、「さすまた」や「呼び笛」の常設、児童生徒への避難指導を実施している。



その行動、カメラが見ている

スマホで視聴
できます▼



でぐち きじゅうろう
出口 喜重郎 議員



二期目の町政挑戦は

長 熟慮の末、挑戦を決意
町 した

水稲栽培への施策は

問 備蓄米放出について連日報道されているが、町内の作付面積の変化は。

町長 町内作付面積は令和4年が370ヘクタール、令和5年が351ヘクタール、令和6年が338ヘクタールとなっている。

問 小規模農家ほど赤字幅が大きい現状に対し、今後農地集積を推進し、大規模な稲作農家を育てていく考えはあるか。

町長 農地中間管理機構を通じて耕作を行う農家へ圃場の幹旋など、耕作者へ配慮した農地の集約化や作業効率化につなげ

る。また、地域の中心となる人物を育成し、担い手となる団体を地域内で形成していくことが、今後の農業政策において重要である。



集約と効率化が未来を切り開く

問 稲作農家の育成と持続可能な稲作経営に対する町のプランは。

町長 基盤整備をしっかりと行い、圃場を広く確保し、機械が入りやすい環境を整備することで効率化を図る。食べること、作ることの両面を考慮し、総合的に米農家を支える政策を推進する。

問 米や野菜に限らず、価格が少しでも上昇すると連日報道されるが、生産者の視点に立つ

たメディア対策の方針はあるか。

町長 人件費や資材代など高騰する中で農作物が生産されている現状を、積極的に広報していきたい。

問 稲作農家への助成についての考えは。

町長 能力の高い機械への更新を支援する助成を行う。

三納代北側エリアの利用

問 年間を通して観光農園ができる施設について、町長の考えは。

町長 場所と費用をどう決めて確保するのか検討していく。



交流人口の滞在を促す施設を

問 二期目の町政挑戦は。

町長 多選には否定的な考えを持ってはいるが、周囲から出馬要請を受けた。F35Bの受け入れを決定し、垂直着陸訓練についての交渉はこれからという段階である。責任を持って町政運営に取り組んでいく。

スマホで視聴
できます▼



まつ 美 緒 議員
うら 松 浦

ふるさと納税及び企業版ふるさと納税について

問 ふるさと納税の現状は。

町長 昨年度は本町として初めて寄付額が20億円を超え、21億4140万5309円となった。寄付件数も7万件を超え、令和5年度と比較して1万件以上増加している。

問 昨年度好調だった要因と返礼品の種類として多いものは。

町長 ポータルサイトを7件増やしたことが寄付額増加の要因である。返礼品として寄付額が最も多いのは「うなぎ」で、全体の約半分を占める。次いで「マンゴー」や「ライチ」などの果物が約3割、続いて「卵」

ふるさと納税の現状は

長 昨年度初めて20億円を
町 超えた

が選ばれている。

ポータルサイトの拡充



返礼品人気ランキング

問 ふるさと納税は本町にとって有効に活用されているが、

今後の取り組みと目標額を伺う。

町長 今年度は6月からガバメント・クラウドファンディングを開始予定である。国の重要文化財に指定された「百足塚の埴輪復元プロジェクト」への寄付を募る。また、7月からJALふるさと納税の導入を含め、ポータルサイトを拡充する予定である。大型事業の推進も視野に入れ、目標額を30億円程度に設定する。

問 企業版ふるさと納税の寄付額について、町村の中で九州・宮崎県で何番目か。

町長 九州内では令和3年度が2位、令和4年度・令和5年度は1位である。県内町村では3年連続で1位を維持している。

問 上位を維持している要因は。

町長 職員の努力とトップセールスの成果が要因と考える。企業と協力し、新富町の課題を掘り下げ、オーダーメイドで事業に取り組んでいることも要因の一つである。

共生社会の実現に向けて

問 一般事業所の合理的配慮の義務化における本町の取り組みを伺う。

町長 令和5年度から「新富町商工業振興補助金」により、町内事業所の合理的配慮を目的とした設備投資費の一部を補助している。補助率は3分の2、上限額は30万円であり、簡易スロープや手すり、点字メニュー作成などが対象となる。現在の実績は1件である。



小さな配慮で、大きな笑顔

問 今後の取り組みと周知方法について。

町長 商工会と町のホームページに掲載し、周知を図る。また、商工会に対し合理的配慮に関する研修会の開催を要請していきたい。

スマホで視聴
できます▼



い び かね ひさ
捐 斐 兼 久 議員

F35 B 関連の今後の進め 方は

町長 方針変更は、最重要課題であり、**町** 確固たる信念を持って交
渉する

問 F35 B 関連の住民説明会
に対する意見の集約及び今後の
進め方は。

町長 訓練方針の変更に関し
て国に対する不信任感が強く、夜
間訓練や騒音問題への不満、防
音工事の基準の見直しを求める
意見が多く寄せられた。訓練方
針の変更は環境問題として捉え、
強く交渉していく。



垂直着陸の様子

問 整備拠点の誘致に関する
現在の動きは。今年中に防衛施
設庁等に要望すべきと考えるが、
町長 様々な課題について関
係機関と確認を取りながら検討
している。引き続き実現性を考
慮しながら活動していく。

問 この件に関して一番重要
なことは。

町長 地元住民の理解を得る
ことであると考える。

問 防音工事の実態は。

町長 令和7年5月末時点で
希望届の数は約360世帯であ
る。約100世帯が完了し、約
30世帯が工事中である。限度額
の見直しについては、引き続き
要望していく。

問 希望者の割合が約36%と
少ないと感じる。今後のために

も、希望届を提出していただき、
見積もりが出た段階で工事を実
施するかどうかを決めてほしい。
町長 引き続き周知を図って
いく。



工事の早期着工を

防災、危機管理について

問 今年度の防災訓練の予定
は。

町長 津波浸水被害想定区域
にある各地区の一斉避難等を考
えている。また、障がい者を対
象とした避難者受け入れ訓練等
を計画する。

問 新富町地域防災計画の見
直しは。

町長 常に見直しを行い、計
画に反映している。今後は、災
害対策基本法の改正案を受けて

計画を見直す。

宮崎県農地中間管理機構 について

問 農地中間管理機構の位置
づけは。

町長 農地の集積・集約を進
めることが業務である。農地の
貸借や売買は中間管理機構を通
じて実施することとなっている。
問 町内における農地バンク
の実績は。

町長 町内の集積率は約24%
である。

学校教育関連について

問 教員の定数は満たされて
いるのか。また、町独自の配置
は。

教育長 加配を含めた県の教
員定数は満たされている。町独
自に特別支援教育支援員や学力
向上補助教員等を配置している。
問 適応指導教室指導員が1
名というの少ないのではない
か。

教育長 検討する。